

『紡ぐ』

2022.12.1 第5/号

発行 教育相談室「あした塾」

あけす 秋風景



(樺地内の紅葉 11/21)

年賀状の準備を急がなければ...と思っている人も多いのでは
ないだろうか。戸水町の秋の風景をいくつか紹介する。行く秋
を思い、そして「故郷あけす」をあらためて考えてみせん
か!? 戸水にはすばらしい風景があちこちにありす。そして

た、なんとか後世に伝えていかねば...と思える文化財。文化財たくさんあります。
人口減、高齢化、過疎化が進む中、どうあつて、これ風景、文化財、文化を保存・伝承

できるだろうか。残念なが、その価値や
意味を理解しようとしてない人もいるようです。

過疎化とは、単に人が居なくなるというこ
とではないのだ。



(川島地内のいちぢき木 11/1)

風力発電

吉村町長に要望書



(戸水町文化祭の様子
BG体育館 11/3)

10月24日、「どんぐりの会」の代表でもある池上悟さん他3
名が吉村光輝町長に会い、「能登里山風力発電事業に関する多くの懸念とそれに対する要望」
を伝え、いくつかの問題について意見交換を行いました。「生活インフラで大切な水源・水質の



(資料写真)

問題、「巨大風車設置のため広大な山林が伐採される問題」、「災害
が起きた場合の責任の所在があいまいな問題」、「低周波騒音に
よる健康被害の問題」など、話題になりました。「建設されたら
終わりだ」の声が全国各地で出ている。これらの懸念を払拭する
よう町条例の制定も要望した。(この会には喜崎副町長、吉村
扶佐司、米田秀雄、滝井元之各氏も同席した。)



お隣の町が頑張っています

多くの市民は、この町を存続したい。町のために力を出したい。いろいろな活動をしています。人知れず、コツコツと取り組みを進めている人もいます。ほとんどがボランティアです。気がついてほしいですね。目を向けてほしいですね。

11月3日、鹿島の「桜娘ズ。」の皆さんは鹿島駅の花だんにチューリップの球根を約90個植えました。花だんには 古い風車なども…。

11月10日、越の原ササユリ保存会とボランティアがササユリ群生地での再生を願ひ、球根130個余を植えました。また、同じ10日「どんぐりの会」や穴水中学校の生徒有志が、県絶滅危惧種のチョウジソウの苗を11株「潮騒の道」そばの湿地に植えました。

穴水高校のボランティア部と美術写真部の生徒たちは「どんぐりの会」と協力して、潮騒の道沿いに山野草を守るための標語看板を作っています。

みんな町のために頑張っています。私たちの町をなんびきすることは、他人事ではなく自分事なのです。

「くづ」能行に ご協力も!!

「くづ」能行は、政治活動をしているわけではありません。戦後に町をなんとかしたい。町民、行政、議会みんな考えてみようというこゝろでやっています。読んでください。投稿してください。町のために何らかの動きをしてください。足を引っ張らないで。(T)



(整備された鹿島駅花だん)

11月22日、穴水高校の1年生と奥能登原木しいたけ活性化協議会の人たちが、シタケ栽培の原木となるコナラの苗木を250本植えました。

穴水高校では、「ひととち」の栽培に取り組んでいることは皆さん周知のことです。

発行費をお願ひします。北国銀行 穴水支店 口座番号 6142 教習相談室「あけ塾」